

日本子ども虐待防止学会(JaSPCAN) 第32回学術集会おおさか大会のご紹介！

2026年11月14日(土)～15日(日)に標題の大会が開催されますので紹介いたします。また、今大会の公募シンポジウムで当協議会のこどもまんなか委員会と事業調査委員会が、令和7年度に実施したアンケート調査を基にタイアップした演題が採択されました！！

当日はこどもまんなか委員を中心に発表をしますので、ぜひご参加ください(大会の詳細・申し込み方法・チラシは次ページから掲載しています)。

○ こどもまんなか委員会・事業調査委員会タイアップ演題名

「ファミリーホームにおける意見表明等支援の可能性と課題 ～子どもの声を支える制度と養育者の葛藤～」

○ 発表日

2026年11月15日(日) 13:15 ～ 14:45

○ 企画趣旨(こどもまんなか委員会より)

本シンポジウムでは、ファミリーホーム(FH)における子どもの意見表明等支援のあり方について、こどもまんなか委員会委員(社会的養護経験当事者)、養育者、アドボケート機関の三者の視点から検討する。全国のFHを対象とした調査では、子どもの意見尊重への意識は高い一方、外部アドボケート制度の導入や運用に対して、地域差や養育者側の戸惑いがみられた。FHは生活と養育が密接に重なる場であり、子どもの権利保障を進めるうえで、家庭的な関係性の中に第三者が関わることへの葛藤も生じやすい。

当制度は子どもの権利保障に資する重要な仕組みである一方、養育者のみが負担や緊張を抱える形で運用されては、継続的な実践にはつながりにくい。そこで本企画では、調査報告、現場実践報告、受け手としての養育者の経験共有を通して、FHという生活空間におけるアドボケートの役割と協働の可能性について議論する。子どもの権利保障と養育者支援を対立的に捉えるのではなく、両立可能な実践としてどのように構築できるのかを継続的に問い続ける場としたい。

日本子ども虐待防止学会

第32回学術集会おおさか大会

JASPCAN Osaka



子どもと家族の心の声に向き合う
—つながらる現場、超える垣根—

NOV 14-15, 2026

2026

11

★11/13 金
プレコンgress

14 土 15 日

会場

グランキューブ大阪
(大阪府立国際会議場)



- ・リーガロイヤルホテル横 JR大阪駅よりタクシー約10分
- ・京阪電車中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（2番出口）すぐ
- ・JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分

参加費

早期参加登録：会員12000円／非会員13000円／学生2500円

後期参加登録：会員13000円／非会員14000円／学生3000円

※早期参加登録は、6月1日～9月30日です。

大会長

山縣 文治

実行委員長

上野 昌江

主催

一般社団法人日本子ども虐待防止学会
日本子ども虐待防止学会第32回学術集会おおさか大会実行委員会

お問合せ先：日本子ども虐待防止学会第32回学術集会
おおさか大会運営事務局

Email : jaspican2026@academicbrains.jp

演題のご応募、参加登録などの詳細は、おおさか大会HPをご確認ください。下記URL又はQRコードからご覧いただけます。

<https://plaza.umin.ac.jp/~jaspican32/>



6月1日
登録開始

日本子ども虐待防止学会第32回学術集会おおさか大会

基調 講演



<ビデオレクチャー>

「支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援」
ー虐待予防のためのエビデンスに基づく家庭訪問

Dr. David Olds (University of Colorado Anschutz)

デイビッド・オールズ博士の指導のもと開発・検証された家庭訪問プログラム
(Nurse Family Partnership) の理論的背景、具体的な構成要素、そして科学的
根拠を紹介し、日本における児童虐待予防の根本的アプローチについて、母
子保健、福祉、教育などの分野を超えて考える機会を提供します。

<シンポジウム>

「オールズ先生の家訪問プログラムから何を学び、何をいかすか」
小林美智子(子どもの虹情報研修センター)、小橋孝介(鴨川市立国保病院) 他

教育 講演

- ・ 少年非行の背景にある虐待を考えるー警察・福祉・教育機関の協働アプローチ
安永智美氏(元福岡県警少年課・警察庁指定広域技能指導官、現スクールカウンセラー)
- ・ 市販薬オーバードーズの現状と課題ーその後どうなったのか?
松本俊彦氏(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部部長)
- ・ 「ケア」を謳わないケアー「生活が治療的になる」ために
内海新祐氏(旭児童ホーム)
- ・ 子ども虐待とDVの交差点に介入するー子どもの安全を守るためのDVインフォームド実践(仮)
増井香名子氏(武庫川女子大学教授)
- ・ 孤立する妊婦をどう支えるか:内密出産に至る女性たちの声から得た学び
蓮田健氏(慈恵病院理事長・院長) 他

大会 企画

シンポジウム

- ・ 子どもの「声をきく」ために求められるものー学校現場から子どもの権利を解きほぐすー
- ・ 学校だけで守れない子どもたちへー不登校・暴力・非行に向き合う学校と福祉の実践的連携(仮)
- ・ ODというSOSを見逃さないー多職種連携で考える
- ・ 精神疾患のある親と暮らす子どもは何を経験しているかー子どもの視点から支援を問い直す:連携と親支援(仮)
- ・ 西成から届けるこどもを支えるネットワーク
- ・ こどもの気持ちに寄り添う(社会的養護とアドボカシー)
- ・ 誰にも届かないままの妊娠・出産の新たな支援ー医療・保健・福祉連携の挑戦(仮)

～あれから10年～

<ロゴの作者が込めた想い>

大阪で第22回学術集会が開催された10年前、腕の中で眠って
いた赤ちゃん。その子は今、まっすぐに一人の大人を見つめて
います。大人もまた、温かなまなざしで応えています。

「ここにいるよ。」

「安心できる大人に出会えた。」

そんなイメージを描きました。

周りには、手を取り合い、傘を差し、旗を掲げる人たちの姿。
子どもや親、そして家庭に寄り添い、ともに歩む人たちです。
つながり、見守り、支え合う社会へ。

すべての子どもが「安心できる誰か」と出会えることを願っ
て、ロゴに想いを込めました。



第22回学術集会おおさか大会

